

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000291		
法人名	医療法人 功尚会		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	大分県杵築市大字南杵築1941番地1		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム全体が家庭的雰囲気がある 入居者一人ひとりの状態に合わせた介護に取り組んでいる 家族・地域の方が協力的 建物が明るく広く開放的 セラピー犬がいて全員の癒しになっている(入居者・スタッフともに) 食事が美味しい 職員のチームワークがよく楽しく働いている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の敷地内に、診療所があり多くの家族の方が医療との連携に安心されています。職員同士のコミュニケーションもはかれており、デイケアやデイサービス、有料老人ホームなどが隣接し、災害時などの協力体制が整っています。又敷地内にはたくさんの果樹が栽培されており、四季に応じた収穫で果実酒やドリンク、おやつ作りを楽しんでいます。利用者一人ひとりが日々のんびり、ゆったり穏やかに生活されている様子を面会に来られた家族の方が喜んで見守っておられます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000291&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成26年2月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で確認し、ホーム独自の理念を作っている。月1回のミーティング、申し送り、具体的ケアについても計画の統一化を図っている。	事業所独自で職員とともに話し合い、考えて作った理念に基づき、地域に溶け込むための努力を惜しまず、常に日々の実践に活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、買い物、同施設内での交流を行っている。ボランティア等の参加や地域新聞も年2回発行している。また、近くのグループホームとの交流もあり、お祭り等に参加している。	地域の行事に参加したり、他事業所との交換研修や食事会などに参加し又、ボランティアや保育園児の訪問もあり、積極的に交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れも積極的に行っている。また、随時地域の方々からの認知症相談も受けている。運営推進会議等で認知症の理解・支援・学習会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回開催。市の担当者・地域の代表・家族・入居者等の出席により意見・要望があれば取り入れサービス向上に活かしている。ホール入口に提示している。	年に2回は職員全員参加で開催しています。積極的な意見や質問も多く、その都度ミーティングで話し合い結論を次の推進会議で報告しています。提案の中には防災関係もあり、日々の実践に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や交流会「ひばり通信」等も協力が得られており、常に連携を図りサービスの向上に取り組んでいる。	月に1度は入居状況の問い合わせがあり、課題解決や相談に対応して頂いています。又、事業所の行事への参加もあり連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加するとともに勉強会を行い、職員の共有確認を図っている。安全面を配慮した自由な暮らしを支えるよう努めている。ホール入口の鍵をベルに変えて鍵をかけないケアに取り組んでいる。	定期的な研修で全職員の徹底をはかっています。気づいた時は職員同士で声掛けを行い、安全を確保しつつ自由な生活を支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加するとともに勉強会やミーティング等で高齢者虐待防止関連法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。入居者の全身状況の観察を常に行いスタッフ同士の助言等にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加するとともに活用できるよう取り組みをしている。また実例もある。実際に制度について利用者家族に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行い、理解・納得の上契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く話し合う機会もあり、直接要望が聞かれるのでその都度対応している。また、会議等意見が反映されるようにし相互に言いやすい関係を作り意見箱の設置も行っている。2年に1回のアンケートを実施し意見を受け入れている。	家族会もあり、食事会、クリスマス会など行事の参加や面会も多く、意見や要望を言いやすい関係が来ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて職員全体で話し合い意見・提案を聞いて反映させている。また、個人面談等もあり意見を聞いている。	職員での食事会やミニ旅行を行い、話しやすい関係が作れています。提案や意見があればすぐに、ミーティングで話し合い、日々のケアに活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を聞き、働きやすい環境に努めている。職員の気分転換やコミュニケーションを図る等の目的で食事会や小旅行等を行いストレス発散等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やその他の研修を受ける機会を確保し、育てる取り組みを行っている。また、市内のグループホームとの交換研修や意見交換会等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加し、他施設の方との交流の機会を作りサービス向上への取り組みをしている。また、市のグループホーム連絡会等でも交流の機会を2回／年図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人の要望等を聞き入れ安心と信頼関係を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の希望を聞き入れ不安の除去に努めるようにしている。話しやすい雰囲気作りと個人情報保護に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望に沿った支援を行う様に努めている。また、その人に合ったサービス利用(対応)としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員十分把握し、暮らし共に本人を支えていく関係に努めている。利用者同士の関係に努めている。(例)食事時の声かけ・コミュニケーション・作業等出来ることの支援を一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全体、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係に努めている。定期的面会や家族会の開催、家族旅行等行事への取り組みを一緒にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会や外出等が出来、馴染みの人との関係を保てるよう支援に努めている。(ドライブ等で自宅又は自宅近くを通る、法人内での交流会で馴染みの人に会う買い物に行く等)	近所の方や友達の面会、法人内のデイサービスを利用されてる知人に会いに行ったり、馴染みの人との関係を継続しています。遠くの人には年賀状を出し合い、電話や手紙の交換も支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に第一に考え、関わり合い楽しく過ごせるように支援している。(例)レクレーション・食事・コミュニケーション・ドライブ等		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後もこれまでの関係を大切に行き来したり、必要に応じ相談や支援に努めている。家族・本人に遊びに来てもらう等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握し、ケアマネジメントに努めている。日々の行動・言葉・表情等を大切に個別ケアに努めている。	一人ひとりと話し、思いや意向を把握しています。また生活歴や家族の方の話しの中からも意向の把握に努め、常にサービスの質の向上に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方、生活環境等これまでの経過等の把握を行いサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの能力等に応じた生活となるよう現状を把握しその人にあった対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全体のミーティングを行い、全員で話し合い介護計画の作成やモニタリングに努めている。(本人・家族の意見を反映している)	担当者を決めて、毎月のミーティング時にモニタリングを行っています。状態の報告をし職員みんなで話し合い、変化や要望があれば臨機応変に見直しを行い介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別ケアの計画に基づきケアを行い記録する。全員で話し合い見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた柔軟な対応・支援を行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、地域の区長さんを始め民生委員・福祉委員・市職員・家族の方と意見交換の機会を設けている。理美容・商店・消防等把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望による受診支援としている。歯科・整形・眼科等他の医療機関も希望により受診している。	本人、家族の要望により、これまでのかかりつけ医から法人の病院に変わった利用者もいます。かかりつけの、他科受診で家族が同行できない時は、職員が支援し家族に報告、連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名常勤。日々の情報、気づきにより異常等あれば看護師に報告し適切な医療につなげている。同法人の診療所・看護師とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携に努め、早期退院ができるよう情報交換も行っている。定期的見舞いもしている。実際2名の実例あり。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人の診療所と連携している。本人・家族等と十分な話し合いを行い、希望があれば終末期介護も行っている。十分な話し合い後、重度化に伴う意思確認書も作成している。実例5名いる。	入居時に、本人、家族、事業所と十分話し合いを行い、意思確認書を作成しています。状況に応じて家族と話し合いの場をもち、希望の確認を行っています。過去に法人の病院との連携で看取りの実例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内でもAED等救急の研修を講師を招き毎年全員行いマニュアル作成もある。ミーティング(月1回)でも定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアル作成年2回(昼・夜)の避難訓練を行ない備蓄も準備している。地域への協力署名もあり名簿作成している。家族や地域・消防・消防団への声かけも行い協力を得られる様お願いしている。	災害時の避難訓練を年2回行い、対策マニュアルの作成、備蓄の準備も前年度より増加しています。法人全体での、夜間の取り組みや地域の方々の訓練参加で協力を仰いでいます。	自然災害時の防災訓練を、地域への働きかけで協力体制を更に強くして、防災意識の周知、向上に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や来館時、トイレ誘導等においても対応や言動に配慮し、プライバシーを損ねないよう気をつけている。管理者は職員へ機会があるごとに説明・指導している。守秘義務は着任時にも説明し承諾書を書いてもらっている。	個人情報に関する同意書を利用者、家族と交わしプライバシーの保護について、研修やミーティング時にも再確認をして職員一体となって取り組んでいます。トイレや入浴時には、声掛けに注意を払い、希望により同性が介助に当たっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2つに1つの選択を行って「コーヒー・お茶どちらにする？」等本人の思い希望を聞き自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞き入れ、例(ドライブに行きますか?)等状態・ペースを大切に支援している。個々に合ったケアを行っている。ぬり絵、習字、編み物など等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や化粧・髪飾り・髪染め等その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の色どり・好み等楽しみとなる工夫をしている。本人の能力に応じたものとおしぼり準備、お盆並べ、お盆・テーブル拭き等一緒にやっている。	利用者の嗜好を伺い、献立に反映しています。行事の中に、外食やバイキングを取り入れて利用者、家族、職員と一緒に会話をしながら楽しい時間を過ごす事があります。本人の意思により食事の準備、片付けも一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、一人ひとりに応じた食事内容としている。また、本人の好む飲み物やゼリー等を作り、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員行っている。(一人ひとりに応じたケア)また、レクリエーション等でも口の体操やリハビリを行っている。口腔ケアの研修も法人内で行っている。2/Wポリデント使用やハミングッドを使用したケア等個別に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、自立に向けた取り組みを行っている。定期誘導やパットの使用については一人ひとりに合った方法を行う。ミーティング等で毎月話して統一化を図っている。日中は出来るだけトイレでの排泄支援を行っている。排泄ケアの研修等もしている。	一人ひとりの生活リズムに沿って日中は全員、トイレでの排泄支援を行っています。パットの使用や誘導も一人ひとりの状態に合わせて支援しています。オムツのスキルアップ講習が法人内で行われ支援の向上に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックして、一人ひとりの状態に応じた工夫を行っている。飲食物、運動等。(水分量・牛乳・ヨーグルト等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日毎に計画しているが希望や汚染があれば毎日入浴できる。入浴しない日は足浴を実施している。タイミングを図り声かけしている。(季節感を出す様入浴剤やゆず湯等の工夫もしている)夜の希望者は現在いない。	2～3日に1回入浴日となっていますが、本人の希望により入浴ができ、入浴日以外は足浴を実施しています。安心して入浴できるように声掛けやタイミングに留意しています。入浴剤やゆず等で楽しんで頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。(昼寝・時間等)生活リズムを大切にしている。体操、レクリエーション、散歩、日光浴等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解できており(ファイル作成)服薬の支援に努め状態等の変化にも努めている。(服薬の再確認に努めダブルチェックしサインしている)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、洗濯たたみ、犬の世話、梅干し作り、柿干し作り、お盆拭き、テーブル拭き、モップがけ等一人ひとりの能力に応じた楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かけるよう常に努めている。ドライブ以外ではテラスでお茶、散歩、買い物、他施設との交流等出来るだけ外の空気にふれるように支援している。年2回家族との外出やボランティアによる協力もある。	利用者の希望により、ドライブは季節感の見える場所へ出かけています。近隣への買い物、隣接する法人施設への散歩や交流、又施設のテラスで外気浴をしながらお茶の時間が持たれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は職員が預かっている。希望や能力があれば支援につなげたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の支援をしている。希望者は手紙等定期的(年賀状・暑中見舞い等)に行い個別に出す支援を行っている入居者もいる。(3名)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り付け、家庭的雰囲気のある掲示等をして五感で感じられるよう工夫している。掘りコタツや畳の空間も設けている。(アロマセラピーも行っている)	季節の花や職員との共同作品、近隣の保育園児の作品等身近で親しみの持てる展示物が飾られています。日中長く過ごす場所として、家具の配置やスペースも十分あり穏やかに過ごせるように配慮がみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・居間・ソファー・テラス等気の合った人同士が過ごせる居場所の工夫もしている。トラブルがないように常に注意を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	人形・ソファー・衣類ケース等一人ひとり使い慣れた品を置き、家具等も置くことができる。安心して過ごせる工夫をしている。(家族の写真やカレンダー等も飾っている)	本人が落ち着いて過ごせる場所として、馴染みの品、使い慣れた品が置かれています。安らぎのもてる雰囲気作りを大切に、整理整頓がされ清潔感がみられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ等の場所が分かる工夫をしている。室内バリアフリーでトイレ・ホール手すりの設置等がしてある。		